

データ連携による業界の垣根を越えた持続可能な物流！！

農産物と日用雑貨を対象に、業界の枠を越えた共同物流の実証実験を実施します。

(公財)流通経済研究所は、農産物の出荷情報と加工食品・日用雑貨の物流情報を連携させ、業界横断の共同物流を実現する仕組みを構築。このたび、宮崎から東京へ農産物を輸送するトラックの戻り便で、東京及び大阪の日用雑貨を宮崎・福岡・鹿児島まで輸送する共同物流にモーダルシフトを組み合わせた実証実験を実施します。

実証実験の行程



1. 背景と目的

日本における農水産物・食品の流通の98%はトラック輸送に依存しています。しかし、2024年度からトラックドライバーの時間外労働の上限規制が適用されたこと（物流の2024年問題）から、流通の効率化と合理化が急務となっています。さらに、トラックドライバーのみならず、流通業界全体で労働力不足が深刻化しており、この問題への迅速な対応が求められています。

こうした状況で、共同物流は物流業界の課題解決に不可欠な手段として注目されています。共同物流には輸送効率の向上やコスト削減、さらにはCO2排出量削減といった多くのメリットがある一方で、実現に向けては課題があります。特に、共同物流を実現するためには、多数の荷主や物流事業者が流通データを共有する仕組みが不可欠ですが、こうした取組みが十分に広がっていないのが現状です。

これらの課題に対応するため、研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）¹「商品コード標準化・ソースマーキング技術による農水産物・食品流通の高度化」²において開発した、スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）³とリテール物流・商流基盤⁴のシステム連携機能を活用し、農産物と日用雑貨の荷主の物流情報を連携させ、業界の枠を超えた農産物と日用雑貨の共同物流の実証実験を実施します。この取組みを通じて、社会実装に向けた効果検証と課題抽出を行い、流通業界全体の持続可能性の向上と効率化に貢献していきます。また、流通経済研究所では、リテール物流・商流基盤を通じたデータの利活用による成功事例の創出を目的に設立した物流データ利活用研究会⁵においても、本取組みを促進しています。

2. 実証実験の対象地域について

本実証実験は、九州地方を対象に実施することとしました。

九州から本州への農産物の荷量は確保されているものの、本州から九州への戻り荷の確保が課題となっています。また、日用雑貨の本州から九州への物流は、福岡県を経由する1本の経路に依存しているため、災害時におけるリスクの増大や効率の悪化が顕著です。特に南九州から福岡への荷物の確保が難しく、運賃収入が安定しない状況にあります。

このような状況に対応するため、九州から本州に輸送した農産物の戻り便を活用して日用雑貨の輸送を行う共同物流の実証を実施します。また、本州（神戸港）から南九州（宮崎港）の間はフェリー輸送を活用することとし、これにより、トラックドライバーの労働時間短縮や長距離輸送の効率化を図ります。なお、宮崎港に到着した貨物を南九州の各地に配送するため、交通の便の良い宮崎県えびの市を中継拠点⁶として、鹿児島県や宮崎県内の主要エリアへ配送する体制を構築します。これにより、九州全体の物流ルートの多元化を進め、南九州への安定的な物資供給を支える取組みを実施します。

南九州の中継拠点

ポイント

- 2024年問題と災害物流を両立した物流構造の構築
- 九州内物流の一方通行を無くす
- 福岡発南下ルートだけの現状から、宮崎港・指宿港からの北上ルートを拡大する。

北上ルートの企画案

- 南九州中間地の「えびの市」に中継拠点をつくる
- 拠点は多数が利用できるプラットフォームにする。
- マッチング、シェアリングが可能なデジタル拠点
- 全温度帯、危険物対応などの特殊倉庫も併設する



3. 実証実験の概要

(1) 事業名

研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE) のうち農林水産省が実施する施策「商品コード標準化・ソースマーキング技術による農水産物・食品流通の高度化」

(2) 実証期間

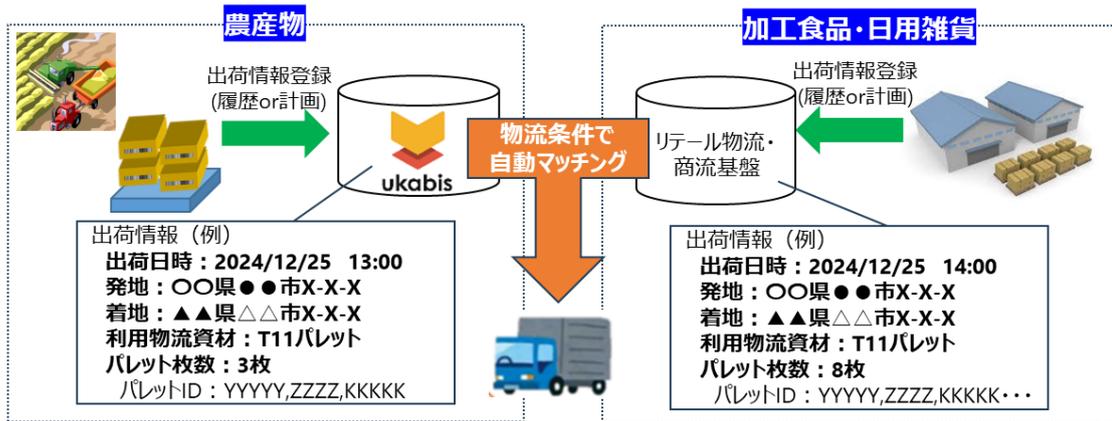
日程：2025年2月2日（日）～2025年2月8日（土）

(3) 実証実験の内容

・システム連携について

本事業では、農産物の出荷情報と、日用雑貨の物流情報を組み合わせ、農産物と加工食品・日用雑貨等の共同物流のマッチング技術を開発し、農産物の物流効率化に向けて、戻り便を活用した共同物流を実現します。

「農産物と加工食品・日用品等の共同物流の実現」のためのシステム連携



ukabisとリテール物流・商流基盤の連携で、業界横断的な物流連携が可能に

具体的には、宮崎県の農産物の出荷情報を、ukabis からリテール物流・商流基盤に連携します。リテール物流・商流基盤の往復の輸送マッチング機能を活用して、ukabis 上の農産物の出荷情報とリテール物流・商流基盤上の日用雑貨の物流情報を基に、マッチングを行い、共同物流を実施します。

4. 実証実験参加企業

このたびの実証実験では複数業界の多数の企業に参加・協力をいただいております。参加企業の社名は以下の通りです。

企業名	
荷主	宮崎県経済農業協同組合連合会 小林製菓株式会社、ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社
卸売	株式会社PALTAC
物流事業者	宮崎配送株式会社、宮崎カーフェリー株式会社、八代丸善運輸株式会社（丸善グループ）

5. 今後について

今回の実証実験の成果をもとに、農産物の出荷情報と他業界の物流情報を多数の荷主企業から収集し、共同輸送・往復輸送等の機会を拡大できるよう、取組拡大・社会実装を進めて参ります。

- <https://www8.cao.go.jp/cstp/bridge/index.html>
- https://www8.cao.go.jp/cstp/bridge/keikaku/r5-21_bridge_r6.pdf
- <https://www.ukabis.com/>
- https://j-pic.or.jp/sip-service/3-smart_logistics_service/
- https://www.dei.or.jp/project/sip_logidata/index.php
- https://www.city.ebino.lg.jp/sangyo_business/sangyoshinko/shokogyo/1/2598.html

○実証実験に関するお問い合わせ先

公益財団法人流通経済研究所

東京都千代田区九段南 4-8-21 山脇ビル 10 階

担当：田代英男（たしろひでお）、盛ちひろ（もりちひろ）

TEL 03-5213-4534

FAX 03-5276-5457

MAIL: hideo_tashiro@dei.or.jp: chihiro_mori@dei.or.jp